

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 36

学校名・団体名	熊本市立長嶺小学校
HPアドレス	<a href="http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/nagaminees/index.htm">http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/nagaminees/index.htm</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地震による不安な心を運動遊びで吹き飛ばそう Part II
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>昨年度に引き続き、運動遊びを活発にすることで、熊本地震による不安な心を払拭し、弱った体力を回復する。運動遊びに必要な用具を増やし、児童が楽しみながら活動できるようにしたい。</p>	

## 1 熊本地震後の子どもたちの心の状態について

平成28年4月の熊本地震から1年が経過した。しかし、まだ学校や家庭での生活に不安をもっている子どもがいる。本校では、熊本市教育委員会から派遣される「緊急対応カウンセラー」の配置もあり、本年度はのべ70人を超える子どもたちがカウンセリングを受けることになった。また、本校の教育相談室の「心のサポート相談員」の所には、毎学期200人を超える子どもたちが来室する状況である。

そのような状況の中、昨年度に引き続いて「地震による不安な心を運動遊びで吹き飛ばそう」を合言葉に、運動遊びが十分とは言えない子どもたちが、夢中になって運動遊びに取り組むようになることを願い、全職員で取り組むことにした。特に本年度は、職員研修の中で体育授業の改善・充実を目指し、運動遊びの奨励に向けての教職員の指導力向上にも取り組むことにした。

また、本校が「TOKYO2020 オリンピック・パラリンピック教育（オリパラ教育）実施校」でもあるため、子どもたちのスポーツに対する関心や意欲を高める機会に恵まれている。そのことは、子どもたちがもっている不安な心を吹き飛ばし、さらに自信をつけるきっかけにもなると考え、「震災復興支援」と「オリパラ教育」の視点を関連させながら取組をスタートさせることにした。

## 2 昨年度に引き続き運動用具を充実

本校の子どもたちの体力の実態として、投力や走力の向上が課題であった。昨年度の本助成により、投力向上のための「スカッドボーイ」と「ロープウエイスロー」を設置し、十分活用できた。また、走力向上のための「イレクターパイプ」を使った自作ハードル、巧緻性を高めるための「逆上がり補助板」、その他一輪車や竹馬の数も増やすことができ、運動が苦手な子どもでも各種の運動遊びに親しめるような環境づくりができた。本年度も、本助成により「リングゲーム」で活用できるホースを使った自作リングを製作し、また「イレクターパイプ」を使った自作サッカーゴールも追加でき、さらに運動遊びの環境が整ってきた。

## 3 児童会体育委員会からの呼びかけ

昨年度の取組を参考にしながら、本年度も、体育委員会が児童会代表委員会で提案できるように準備した。児童会担当者から、「今年も、昨年熊本地震で不安になっているみんなの心を元気にしよう。」「長嶺小のみんなで協力し合って、いっぱい遊んで楽しい気持ちをもとう。」と呼びかけを行った。そして、次のようなテーマを掲げて活動した。

1 学期…「投げる力を高めよう」「走る力を伸ばそう」

2 学期…「逆上がりに挑戦しよう」「一輪車や竹馬に乗ろう」

3 学期…「なわとびをがんばろう」「熊本市わくわくチャレンジ長なわとびフェスタへ参加しよう」

## 4 学校の教育目標と取組の方向との関連

長嶺小学校の学校教育目標は、「活力ある子どもを育てる」である。取組のスタートに当たり、まず全職員で子どもたちの実態や目指す子どもの姿、そして授業づくりのイメージを出し合い、子どもたちの課題と取組の方向を確認した。

職員が分析した本校の目指す「活力ある子ども」とは、次のような子どもたちの姿である。

★「やってみたい」「挑戦してみたい」と思う子ども ★自分の考えや意見をもつ子ども

★自分の思いをはっきりしっかり伝える子ども ★自己表現できる・反応する（教師へ、友達へ）子ども

★自己肯定感のある子ども ★「できた」「コツが分かった」と喜ぶ子ども

★つぶやいたり、どうにか考えようとしていたりする子ども ★考えを受け入れ、他の意見を聞く子ども

★学習の準備や心構えができている子ども ★「分かりません」が言える子ども

★達成感をもつ子ども ★見通しとやる事が分かっていて、前向きに挑戦できる子ども

## 5 活動の実際（本年度の取組から）

### (1) 「ホースを使った自作リング」によるリングゲームの実施（平成29年10月実施）

リングゲームとは、ボールをパスしたり、保持して走ったり、空いている場所に素早く動いたりして、攻防を組み立て、得点を競い合う運動である。また、子どもたち一人一人が楽しめるように、ルールを工夫したり、簡単な作戦を立てたりするなど、友達と励まし合いながら学習を進めることができる運動である。さらに、「投げる」「捕る」「相手やボールをよく見て動く」「パスするのに適したポジショニングに気付く」などを身に付けることができる運動でもある。

今回、このリングゲームで使用する「ホースを使った自作リング」を製作し、活用した。安価で簡単につくることができ、軽いので準備も簡単であり、結果的に少人数で行う練習の回数を増やすこともできた。子どもたちは、このリングをうまく使って練習し、ボールに触れる機会が増え、友達と協力してプレーすることの楽しさを感じることができたようである。本校の運動用具として、他の種目でも活用できると考えられる。

## (2) 長なわとびフェスタ (平成 30 年 1 月実施)

本校では、毎年「なわとびがんばり週間」を行っており、今年度も昨年度に引き続き、全校で取り組んだ。「短なわがんばり週間」では、なわとびカードを活用し、跳び方のレベルを向上させていくことに挑戦した。「長なわがんばり週間」では、3分間「長なわ連続八の字跳び」に挑戦した。連続で縄に入る技能を高めるだけでなく、学級の団結力を高めることにもつながった。

1月15日(月)～2月2日(金)の3週間は「長なわ月間」として、全校で取り組んだ。各学級を2チームに分け、3分間跳びを2回行い、よい記録の合計回数を記録していくことにした。また、水曜日の業間の時間は、「長なわタイム」として、各学年・学級の最高記録を目指してがんばった。その記録は、児童昇降口下足箱近くに掲示した。

子どもたちのがんばりの結果、本年度「熊本市わくわくチャレンジ長なわとびフェスタ」では、「奨励賞」をいただいた。この賞は、全体の80%以上の学級が基準回数を達成した学校に贈られるものである。長嶺小の達成率は、見事に全体の87%を達成しすばらしい記録となった。大規模校である本校の受賞は、子どもたちや教職員の励みになり、さらに自信をもって運動に取り組むきっかけにもなった。



## (3) オリンピアン の 来 校 (平成 30 年 1 月 25 日 実 施)

熊本地震で被災した熊本の子どもたちを元気づけようと、アテネオリンピック 1600mリレーに出場した伊藤友広選手を講師に講演会を実施した。伊藤選手は、体育館に集まった子どもたちに、自分自身の経歴を紹介しながら、「夢をもつことの大切さ」「チャレンジすることの楽しさ」「速く走るコツ…」について話し、子どもたち一人一人にやさしく語りかけていただいた。

伊藤選手からのメッセージは次のとおりである。

- ★たくさんチャレンジし、たくさんの体験をしよう
- ★その中から自分の好き・得意を見つけよう
- ★目標・夢があったら、期限を決めてやり抜いてみよう
- ★一定期間やり抜いたら、また同じものに向かい頑張るのか、次の目標・夢にチャレンジするのか考えよう

子どもたちは、終始ニコニコ笑顔で、集中して伊藤選手の話聞いていた。時々、「今日は、僕の話をしっかり聞いたほうが“得”するよ…」というつぶやきに、全体がシーンとなった。子どもたちから、「目標を達成するには、やりぬく力が必要だと思った。」「挫折の後に、学ぶことがあることがわかった。」「目標を失った時、伊藤選手の言葉を思い出します。」「夢を見つけるために、いろんな経験をしていきます。」などの積極的な感想が寄せられた。子どもたちは、伊藤選手から「速く走るコツ」を学んだことをヒントに、走ることに自信をつけるきっかけともなった。来年度、本校児童の体力テスト(50m走)の結果集計が楽しみである。



## (4) オリンピック・パラリンピックマスコット投票 (平成 30 年 2 月 28 日 実 施)

熊本地震で被災した本校を会場に、全国の小学生が投票した「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」マスコット投票結果発表があった。東京の発表会場と本校を結び、結果発表を待った。小学生の投票による決定という「歴史的瞬間」であった。約 1000 人の子どもたちが一斉に歓声を上げ、会場は盛り上がった。オリ・パラ教育実施校である長嶺小の歴史にも残る大イベントとなった。本助成金を活用して、運動遊びを奨励し、楽しみながら運動に親しんできた子どもたちである。今回の取組も、熊本地震後の子どもたちの不安を解消することにもつながっていることを十分実感する機会となった。マスコット投票を通じて高まった子どもたちの運動やスポーツへの興味関心をさらに広げ、本校独自のオリ・パラ教育をさらに充実させたいと願っている。

### 6 考察

昨年度に引き続き、震災復興支援枠の助成を受けて、「運動遊び」に焦点を当てた特色ある教育活動が展開できた。始業前や昼休みに子どもたちが元気に遊ぶ姿、子どもたちの体力向上を目指して真摯に授業づくりに向かう教職員の姿があり、地域の方々から「活力ある学校」と評価していただけるようになった。テーマである「地震による不安な心を運動遊びで吹き飛ばそう」のねらいは、達成に向かいつつあると思われる。

3月に入り、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果が届いた。その中の質問紙調査で、「運動やスポーツをすることは好きですか。」「自分の体力・運動能力に自信がありますか。」「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか。」の質問に対する回答が、いずれも全国平均を上回る結果となっている。また、子どもたちの実態として、これまで全国平均を下回っていた「シャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」についても少しずつ改善が見られるようになった。さらに、来年度も継続して取り組んでいきたい。